

疾患群、疾病名、疾病の状態の程度の変更

疾患群	区分	番号	疾病名	疾病の状態の程度	備考
血液疾患 →脈管系疾患	遺伝性出血性末梢血管拡張症		遺伝性出血性末梢血管拡張症	治療で補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、ステロイド薬の投与、免疫抑制薬の投与、抗腫瘍薬の投与、再発予防法、造血幹細胞移植、腹膜透析又は血液透析のうち、一つ以上を継続的に実施する（断続的な場合も含めておおむね6か月以上） 場合 疾病による症状がある場合又は治療が必要な場合	より適切な疾患群への移動とともに、疾患群内において「疾病の状態の程度」の整合性をとる。（青色ゴムまり様母斑症候群、巨大動静脈奇形等）
血液疾患 →脈管系疾患	カサバツハ・メリット症候群		カサバツハ・メリット症候群現象（症候群）	治療で補充療法、G-CSF療法、除鉄剤の投与、抗凝固療法、ステロイド薬の投与、免疫抑制薬の投与、抗腫瘍薬の投与、再発予防法、造血幹細胞移植、腹膜透析又は血液透析のうち、一つ以上を継続的に実施する（断続的な場合も含めておおむね6か月以上） 場合 疾病による症状がある場合又は治療が必要な場合	より適切な名称へ変更する。また、より適切な疾患群への移動とともに、疾患群内において「疾病の状態の程度」の整合性をとる。（青色ゴムまり様母斑症候群、巨大動静脈奇形等）また、現状に即した疾病名に変更する。
膠原病 →皮膚疾患	スティーヴンス・ジョンソン		スティーヴンス・ジョンソン症候群（中毒性表皮壊死症を含む）	治療で非ステロイド系抗炎症薬、ステロイド薬、免疫調整薬、免疫抑制薬、抗凝固療法、γグロブリン製剤、強心利尿薬、理学作業療法、生物学的製剤又は血漿交換療法のうち一つ以上を用いている場合 治療が必要な場合	より適切な疾患群への移動とともに、疾患群内において「疾病の状態の程度」の整合

	ン症 候群				性をとる。(膿 疱性乾癬)
神経・ 筋疾患	重症 筋無 力症		重症筋無力症	眼筋症状、運動障害、知的障害、意識障害、自閉傾向、行動障害（自傷行為又は多動）、けいれん発作、皮膚所見（疾病に特徴的で、治療を要するものをいう。）、呼吸異常、体温調節異常、温痛覚低下、骨折又は脱臼のうち一つ以上の症状が続く場合	現状では眼筋型重症筋無力症には対応できておらず、疾病の特性に合わせてより適切に変更する。